

なつやすみの美術館8 タイムトラベル

MOMAW Summer Museum Project #8 TIME TRAVEL

2018.07.07(sat)-2018.09.02(sun)

出品目録

- ◇出品作品について、展示にしたがって作家名、作品名等を記載しています。
- ◇同じ題名の作品は記載を省略している場合があります。
- ◇所蔵注記に所蔵者の記載がない作品は当館の所蔵作品です。
- ◇都合により、出品作品を変更する場合があります。

- ・展示室では鉛筆を使用してください。
- ・作品にさわらないよう壁から離れてご鑑賞ください。
- ・写真撮影は可能ですが、著作権者の権利を侵害しないよう注意してください。フラッシュおよび三脚は使用できません。また、他の来館者の鑑賞を妨げないようご配慮ください。

○イントロダクション ようこそ、時間の旅へ／Introduction: Welcome to the Time Travel

作品の中にはいろいろな時間が流れている。作品をみながら時間の旅にでかけよう。

柴川 敏之（しばかわ としゆき SHIBAKAWA Toshiyuki／1966- ）

2000年後に発掘された招き猫の化石／Fossil of the Beckoning Cat Excavated in the 41st Century

2004（平成16）頃 ミクストメディア 18.0×13.5×9.0 個人蔵

いらっしゃい。ようこそ美術館へ。41世紀からやってきました。でも21世紀にいたこともあるよ。

1.宇宙の時間への旅／Travel to the Time of the Space

宇宙はおよそ138億年前に生まれたと言われる。宇宙のはじまりとともに、時間もはじまったのかもしれない。目で見える一番遠くにある星まで、200万光年以上あるそうだ。今、見えている星の光も、何万年も昔の光かもしれない。

吹田 文明（ふきた ふみあき FUKITA Fumiaki／1926- ）

銀河の創世／Creation of Galaxy 1982（昭和57） 木版、紙 68.5×60.0 作者寄贈

赤い星／Red Star 1983（昭和58） 木版、紙 68.1×59.5 作者寄贈
 宇宙華／Space Flower 1998（平成10） 木版、紙版、紙 87.8×60.0 作者寄贈

宇宙が生まれるようすはどんなものだったのだろう。

建畠 覚造（たてはた かくぞう TATEHATA Kakuzo／1919-2006）

星の樹 2／Tree of Star 2 1961（昭和36） ポリエステル、鉄 245.0×70.2×50.0

クラベ、アントニ（CLAVE, Antoni／1913-2005）

星／Star 1967（昭和42） 銅版、紙 49.6×69.2 西本伊都子氏寄贈

野村 仁（のむら ひとし NOMURA Hitoshi／1945- ）

落下の瞬間に／In Falling Awaking 1996（平成8） 隕石 206×100.0×10.0 田中恒子氏寄贈

地球に落ちてくる星もある。隕石だ。鉄とニッケルでできている隕石を、隕鉄とよぶ。オクタヘドライト型隕石（八面体晶隕鉄）には、100万年ぐらいかかって冷えることで、ニッケルが分離して結晶したウイドマンシュテッテン構造が見られる。この額の中の隕石の断面がそれだ。

加納 光於（かのう みつお KANO Mitsuo／1933- ）

星・反芻学／Star: RUMINATION 1962（昭和37） インタリオ、紙 42.2×37.6

星・反芻学／Star: RUMINATION 1962（昭和37） インタリオ、紙 45.2×42.3

反芻というのは、牛などが一度のみこんだ食べ物を、口に戻してかみ直してのみこむこと。そこから、繰り返し考え、よく味わうという意味でも使われる。反芻学というのは作者の加納さんが考えた言葉だけれど、どんな意味なんだろうか。

深沢 幸雄（ふかざわ ゆきお FUKAZAWA Yukio／1924-2016）

星の門／Gates of Stars 1972（昭和47） 銅版、紙 74.0×49.7 作者寄贈

2.自然の時間への旅／Travel to the Time of Nature

草木の成長のように、自然におこることにかかわると、人間はそこに時間の不思議を見つける。

アックリング、ロジャー（ACKLING, Roger／1947-2014）

ノーフォーク／Norfolk, England 1988（昭和63） 木、太陽光線 69.2×5.0×3.9

しおのみさき
潮岬/Shionomisaki 1996（平成8） 木、太陽光線 29.2×17.6×1.0作者寄贈
たいよう ひかり そだ き どうぐ が つくられ、つか われるうちに こわ はへん うみ ただよ かいがん なが
太陽の光をあびて育った木から道具がつくられ、使われるうちに壊れ、破片は海を漂い、海岸に流
れついて、それをひろったアックリングさんが、レンズであつめたたいよう ひかり こ め いま
れついで、それをひろったアックリングさんが、レンズで集めた太陽の光で焦げ目をつけて、今、こ
こにあります。

ゴールズワージー、アンディ（GOLDSWORTHY, Andy/1956-）

ちゅういぶか いちぶ
注意深く一部をやぶった栗の葉/大内山村/1987年11月15日

Chestnut leaves carefully torn sections 1987（昭和62） 写真 95.5×50.4
あおあお しげ くり は ちやいろ か お
青々と茂っていたはずの栗の葉が茶色くなって枯れ落ち、ゴールズワージーさんが葉脈を残して穴
をあけて、つなげてせんをつくりました。

3.歴史の時間への旅/Travel to the Time of History

にんげん れきし れきし えが さくひん れきし
人間がやることは歴史になり、歴史が描かれて作品になり、作品も歴史になっていく。

中村 不折（なかむら ふせつ NAKAMURA Fusetsu/1866-1943）

はくとうおう
白頭翁/White-haired Old Man

1907（明治40） 油彩、キャンバス 200.2×136.6 株式会社 紀陽銀行蔵
ねんまえ にほんじん えが あぶらえ ちゅうごく どう じだい りゅうまい ていし
111年前に日本人が描いた油絵だけれど、中国、唐の時代の劉希夷（庭芝）（651-679?）という
人のよんだ だいひはくとうおう し ないよう ねんねんさいさいはなあいなり さいさいねんねんひとおなじからず
人の詠んだ「代悲白頭翁」という詩にもとづいた内容だ。「年年歳歳花相似」「歳歳年年人不同」
というぶぶん とく ゆうめい
という部分は特に有名だ。

白髪 一雄（しらが かずお SHIRAGA Kazuo/1924-2008）

へいじがねんじゅうにがつにじゅうろくにち
平治元年十二月二十六日/December 26, the first Year of Heiji (1160)

1966（昭和41） 油彩、キャンバス 273.0×363.8

へいあんじだい へいじ らん
平治元年十二月二十六日は西暦では1160年、今から850年以上前の平安時代。平治の乱とよばれる
あらそ
争いがおこった。12月26日には京都で六波羅合戦があつて、勝った平氏が勢力を増すことになつた。
かつせん ようす えが えまき しらが かつせん ぼめん えが
た。合戦の様子を描いた絵巻もつくられている。白髪さんは合戦の場面をそのまま描いたのではな
いこの作品のさいひん だいめい か えら
いこの作品の題名に、どうしてこの日を選んだのかな。

宇佐美 圭司 (うさみ けいじ USAMI Keiji/1940-2012)

鏡像展開 No.1/Mirror Image Development No. 1

2003 (平成15) 水彩、紙 109.0×109.0 個人蔵

イタリア、ルネッサンス期の画家・ラファエロが1509年から10年の間に描いた《アテネの学堂》を上下対称に展開して宇佐美さん独自の人の形を配した作品。《アテネの学堂》には、紀元前のギリシアの哲学者たちが描かれている。ラファエロからさかのぼっても2000年も前の人たちの考えを絵に表した作品を500年後にどういうふうを受け止めるか、宇佐美さんは描きながら時間をさかのぼっていたのではないかな。

4.人間の時間への旅/Travel to the Time of Human Being

人間の時間は祖先から子供へと受けつがれ、つながっていく。

工藤 哲巳 (くどう てつみ KUDO Tetsumi/1935-1990)

未来と過去の間での遺伝染色体による綾取り

Jeux de fils avec le chromosome héréditaire entre future et passé

1979 (昭和54) ミクストメディア 45.5×45.0×15.0

保田 龍門 (やすだ りゅうもん YASUDA Ryumon/1891-1965)

風景/Landscape 1918 (大正7) 油彩、キャンバス 46.0×60.8 保田春彦氏寄贈

粉河で生まれた保田龍門さんが描いた、100年前の景色。

川口 軌外 (かわぐち きがい KAWAGUCHI Kigai/1892-1966)

顔/Face 1918 (大正7) 油彩、板 15.4×22.4 山田拓平氏寄贈

花と少女/Flowers and a Girl 1938 (昭和13) 油彩、キャンバス 117.1×91.2

有田川町で生まれた川口軌外さんが100年前に描いた赤ちゃんの顔。ちょうど100年前に生まれた息子さん。東京で生まれたので京村と名づけられました。

《花と少女》のモデルはわかりませんが、1930年に生まれた娘さんが8才になるのころ。その面影があるようです。

吉田 政次 (よしだ まさじ YOSHIDA Masaji/1917-1971)

箱入り娘 No.1/Shelterd Girl No. 1

1968 (昭和43) 木版、紙 74.1×56.8

ミニとデモの時代 No.1/Age of Miniskirts and Demonstration No. 1

1968 (昭和43) 木版、紙 86.8×72.0 吉田敦子氏寄贈

今から50年前の作品。吉田政次さんの娘さんがちょうど成人となった年。前年10月にイギリスからモデルのツイギーが来日してミニスカートが流行し、東大紛争などデモが盛んに行われた時代の雰囲気^{ふんいき}を作品^{さくひん}にしています。

池田 良二 (いけだ りょうじ IKEDA Ryoji/1947-)

Ancestors 1980 (昭和55) 銅版、紙 44.4×25.3 作者寄贈

Ancestorsというのは祖先^{そせん}たち。だれの祖先^{そせん}なんだろう。自分の祖先^{そせん}はどんな人^{ひと}たちだったんだろうか。

呉採鉉 (お ちえひゆん OH Chae-Hyun/1962-)

家系図 9625/Family Tree 9625

1996 (平成8) 石、電球 85.0×24.0×13.5 田中恒子氏寄贈

家系図^{かけいず}はある一族^{いちぞく}の代々^{だいだい}の系統^{けいとう}を書き記した^きもの。祖先^{そせん}から子孫^{しそん}へのつながり^{なまえ}が名前^{なまえ}で記録^{きろく}されていく。この作品^{さくひん}では家系^{かけい}が電球^{でんきゅう}の光^{ひかり}へとつながっていくようだ。

建畠 覚造 (たてはた かくぞう TATEHATA Kakuzo/1919-2006)

祖/Ancessor 1958 (昭和33) 木、セメント 124.0×37.5×37.5 作者寄贈

祖^そは祖先^{そせん}の祖^そ。「おや」とも読む。この祖先^{そせん}から何が生まれてきた^うのだろう。

清原 啓子 (きよはら けいこ KIYOHARA Keiko/1955-1987)

誕生・MAIKO・12月/Birth, Maiko, December

1983 (昭和58) / 1988 (昭和63) 歿後刷 銅版、紙 15.2×11.6

12月に生まれた^まMAIKO^いさんは、作者^まの姪御^{めいご}さんらしい。人間^{にんげん}を超えた^こ特別な^{とくべつ}存在^{そんざい}のように見える。

森口 宏一 (もりぐち ひろかず MORIGUCHI Hirokazu/1930-2011)

ボッティチェルリ・ヴィナスの誕生・より/After The Birth of Venus by Botticelli

1967 (昭和42) シルクスクリーン、アクリル板他 87.9×134.4×12.0 作者寄贈
いろいろな神話の中では神様も生まれ、死んでいく。

橋本 真之 (はしもと まさゆき HASHIMOTO Masayuki/1947-)

発生期の頃/Days of Nascent State 1994 (平成6) 銅 (鍛金) 34×48×32 田中恒子氏寄贈
作品が生まれてくる最初の時間をそのままとどめることで誕生の印象を与える。

5.時間そのものへの旅/Travel to the Time Itself

時間とはなにか、どういったものか、いろいろな人が考えてきた。時間を形であらわそうとした作品もある。どんな時間があるのだろうか。

今村 輝久 (いまむら てるひさ IMAMURA Teruhisa/1918-2004)

'88封じられた時限6/'88 Sealed Period of Time 6

1988 (昭和63) アルミニウム 26.0×40.0×40.0 今村源氏寄贈

'89封じられた時限4/'89 Sealed Period of Time 4

1989 (平成元) アルミニウム 54.0×13.0×54.0 今村源氏寄贈

'90封じられた時限1/'90 Sealed Period of Time 1

1990 (平成2) アルミニウム 130.0×75.0×50.0 今村源氏寄贈

今村さんは時間をとじこめた形とはどんなものを作品で考えてきた。どんな時間がとじこめられているのだろう。

長谷川 潔 (はせがわ きよし HASEGAWA Kiyoshi/1891-1980)

時・静物画/Nature morte "Le temps" 1969 (昭和44) 銅版、紙 26.5×35.8

時間が止まっているように見える、静かな画面。砂時計は西洋の美術では時間の象徴で、老いや死を思いださせる題材だった。

黒崎 彰 (くろさき あきら KUROSAKI Akira/1937-)

時の軌跡/Traces of Time 1981 (昭和56) 木版、紙 79.7×55.1

津高 和一 (つたか わいち TSUTAKA Waichi/1911-1995)

アシタハキノウニナル/Tomorrow will Become Yesterday

1964 (昭和39) 油彩、キャンバス 193.0×129.8

明日は昨日になる。昨日は明日にならない。

小林 清子 (こばやし きよこ KOBAYASHI Kiyoko/1947-)

ゆが 歪んだ時刻/Distorted Time	1981 (昭和56)	石版、紙	43.0×64.9
ぎゃっこう 逆行する時刻/Retrograded Time	1981 (昭和56)	石版、紙	64.9×42.2
くっせつ 屈折する時刻/Refracted Time	1981 (昭和56)	石版、紙	44.0×65.0

ゆがんだり ぎゃっこうしたり くっせつしたり、それはどんな時間を過ごしているのだろう。

山本 桂右 (やまもと けいすけ YAMAMOTO Keisuke/1961-)

ひかり 光・時間・静寂 No. 6, 7, 5/Light, Time, Silence No. 6, 7, 5	1995 (平成7)	石版、紙	59.9×85.0	作者寄贈
---	------------	------	-----------	------

パラモデル (Paramodel)

パラモデルック・グラフィティ (さわだ
沢田マンションの屋上庭園)

paramodelic - graffiti (roof garden in sawada apartment house)

2007 (平成19) ラムダプリント 120.0×100.0 田中恒子氏寄贈

さわだ
沢田マンションは高知市にある変わった建物。屋上には庭園がある。写真は一瞬を写しとることができるけれど、この作品にはいくつかの一瞬が写っているだろう。

岡本 信治郎 (おかもと しんじろう OKAMOTO Shinjiro/1933-)

だつい
脱衣のイメージ着衣のイメージ/Image of Taking off, Image of Putting on Clothes

1963 (昭和38) 油彩、キャンバス 162.3×130.7

ふくぬ
服を脱いだり着たりするとき、視界がさえぎられる一瞬の時間旅行。

6. つくる時間への旅/Travel to the Time of Creation

さくひん
作品をつくるのにも時間がかかっている。つくる時間が作品になっているような作品もある。

北辻 良央 (きたつじ よしひさ KITATSUJI Yoshihisa/1948-)

WORK (Cézanne) I・II	1978 (昭和53)	銅版、紙	19.2×15.0
---------------------	-------------	------	-----------

WORK (Gogh) I・II	1978 (昭和53)	銅版、紙	19.9×15.5
------------------	-------------	------	-----------

WORK (Gauguin) I・II 1978 (昭和53) 銅版、紙 20.8×15.0

セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、それぞれの自画像を見て、部分を銅版にスケッチする。それを刷ると左右が反対になった絵ができる。それを見て、元の絵を思い出しながら銅版に描いていく。それを刷ると、左右が反対になって、元の絵と同じ絵ができあがるはずなのだ。

孫雅由 (そん あーゆ SON Ah-Yoo/1949-2002)

現前OC78-01/Appearance OC78-01

1978 (昭和53) 油彩、木炭、麻布 194.0×130.5 櫻井和子氏寄贈

絵を描いて、描かれた絵具をけずりとる。残ったあとが作品になる。

7.おわる時間への旅/Travel to the Time of the End

世界のおわり。時間のおわり。人生のおわり。人間はいろいろなおわりと、おわりの後を想像してきた。

高橋 秀 (たかはし しゅう TAKAHASHI Shu/1930-)

APOCALISSE 黙示録/Apocalypse

1979-80 (昭和54-55) アクリル絵具、キャンバス 201.0×339.7

新約聖書の最後の章が「ヨハネの黙示録」。世界のおわりの様子が記されている。

深沢 幸雄 (ふかざわ ゆきお FUKAZAWA Yukio/1924-2016)

ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より マストロ・アダモ

From "Inferno, La Divina Comedia" by Dante: Maestro Adamo

1957 (昭和32) 銅版、紙 35.9×30.0 作者寄贈

ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より ブルネット・ラティーニ

From "Inferno, La Divina Comedia" by Dante: Brunetto Latini

1956 (昭和31) 銅版、紙 35.8×28.9

イタリアの詩人・ダンテが書いた『神曲』の中で、地獄へ行ったダンテがであう人たちを描いている。

上野 憲男 (うえの のりお UENO Norio/1932-)

ノアの舟-曳航-/Noah's Ark; towing 1990 (平成2) 水彩、紙 38.0×56.2 田中恒子氏寄贈

加納 光於 (かのう みつお KANO Mitsuo/1933-)

大岡 信 (おおおか まこと OOKA Makoto/1933-2017)

アララットの船あるいは空の蜜 / Ship for Ararat - Honey of the Sky

1971-72 (昭和46-47) 木、金属、ガラスほか 68.3×44.7×23.6

小清水 漸 (こしみず すすむ KOSHIMIZU Susumu/1944-)

アララットの舟 / Ship of Ararat 2000 (平成12) 頃 銅、石 26.0×46.5×9.3 田中恒子氏寄贈

旧約聖書『創世記』に記された物語では、神は堕落した人類を洪水で滅ぼすことにし、ノアにだけ方舟をつくってすべての動物のつがいとともに逃れるよう伝えた。ノアの方舟はアララト山に流れついたとされている。

福沢 一郎 (ふくざわ いちろう FUKUZAWA Ichiro/1898-1992)

鬼も忙し地獄の整地 / Ogres are so busy to Level the Land in the Hell

1974 (昭和49) 油彩、キャンバス 182.0×227.4

地獄にくる人が多すぎて、受け入れる側も大変なようです。

高井 貞二 (たかい ていじ TAKAI Teiji/1911-1986)

リンネ (輪廻) / Rinne (Metamorphosis)

1959 (昭和34) 油彩、キャンバス 137.5×174.9 作者寄贈

輪廻とは、生き物は亡くなくても霊魂は次々に生まれ変わっていくという考え方です。

8. のこる時間への旅 / Travel to the Time of Relics

おわりをむかえても、のこるものがある。わたしたちはのこされたものによって、過去を知ることができ、未来を考える。

李禹煥 (LEE U-Fan/1936-)

版画集『廢墟へ』 1-7 / Portfolio "To the Ruins" 1-7

1986 (昭和61) 銅版、紙 49.7×39.4

「廢墟」ではなく「廢墟へ」という題名なのは、廢墟を描いたのではなく、廢墟へむかう心のあり

かた
方のようなものをとらえようとしているのだろうか。

山本 正道 (やまもと まさみち YAMAMOTO Masamichi/1941-)

いせき み ふうけい
遺跡の見える風景/Landscape with Ruins 1976 (昭和51) ブロンズ 22.5×96.5×40.5

高原 洋一 (たかはら よういち TAKAHARA Yoichi/1944-)

GEOMETRIC NARCISSUS AX 1988 (昭和63) シルクスクリーン、紙 95.0×141.8

和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈

まかがくてき だいめい みず うつ じぶん すがた こい すいせん
幾何学的なナルキッソスという題名。ナルキッソスは、水に映る自分の姿に恋をして水仙になっ
てしまったという、ギリシア神話にでてくる美少年。この作品で自分の姿をのぞきこむようにしてい
る竹の棒を映しているのは、いせき はくつげんば
遺跡の発掘現場にたまった水。

柴川 敏之 (しばかわ としゆき SHIBAKAWA Toshiyuki/1966-)

しゅつげん ねんご はくつつ かいが かせき
出現II. 40041111 (2000年後に発掘された絵画の化石：セザンヌ)

Appearance II.40041111 (Fossil of the Painting Excavated in the 41st Century: Cézanne)

2004 (平成16) 頃 ミクストメディア、木、キャンバス 66.5×73.5×7.5 個人蔵

しゅつげん ねんご はくつつ かいが かせき
出現II. 40041111 (2000年後に発掘された絵画の化石：モネ)

Appearance II.40041111 (Fossil of the Painting Excavated in the 41st Century: Monet)

2004 (平成16) 頃 ミクストメディア、木、キャンバス 84.0×96.5×9.0 個人蔵

しゅつげん ねんご はくつつ かいが かせき
出現II. 40041111 (2000年後に発掘された絵画の化石：ルノワール)

Appearance II.40041111 (Fossil of the Painting Excavated in the 41st Century: Renoir)

2004 (平成16) 頃 ミクストメディア、木、キャンバス 51.0×42.0×6.0 個人蔵

ねんご はくつつ がくようひん かせき
PLANET BOX I (2000年後に発掘された学用品の化石)

PLANET BOX I (Fossil of the School Supplies Excavated in the 41st Century)

ミクストメディア 個人蔵

ねんご はくつつ にちようひん かせき
PLANET BOX II (2000年後に発掘された日用品の化石)

PLANET BOX II (Fossil of the Daily Necessities Excavated in the 41st Century)

ミクストメディア 個人蔵

ねんご はくつつ げんざい しなもの ねんご
2000年後に発掘された現在のさまざまな品物。2000年後にのこるものはなんでしょう。2000年後
いま くに わか
に今のわたしたちの暮らしは理解してもらえるでしょうか。

長岡 國人 (ながおか くにと NAGAOKA Kunito/1940-)

いせき ISEKI/PY XVII	1978 (昭和53)	銅版、紙	39.4×49.5	作者寄贈
ISEKI/PY XVIII	1978 (昭和53)	銅版、紙	39.7×49.8	作者寄贈

ISEKI、遺跡いせきでしょうか。どこの、いつの遺跡いせきでしょう。

9. ちよっと先の時間さき じかんへの旅たび / Travel to the Time of Near Future

なつ す 夏は好きですか。あんまり暑あついと早はやく秋あきがきて、涼すずくなってほしいと思いますね。ちよっと先さきの
ことかんがを考きょねんえるのは、去まえ年も、その前かこもそうだったから。過みらい去かこがあつて、未みらい来かこがあります。

吉原 英里 (よしはら えり YOSHIHARA Eri/1959-)

あき 秋しゅうかくのノート・収きらく穫きらくの記録 / Notes for Autumn; Record of Harvest

2004 (平成16) 油彩、銅版、紙、寒冷紗、綿布 162.1×260.6 作者寄贈

加納 光於 (かのう みつお KANO Mitsuo/1933-)

《まなざし-疼うずく飛沫ひまつを辿たどれ》九月 / Gaze-Follow the Aching Spray "September"

1989 (平成元) 油彩、キャンバス 194.0×130.2

和歌山県立近代美術館

なつやすみの美術館8 タイムトラベル

出品作家の略歴 作家名アルファベット順

アックリング, ロジャー (ACKLING, Roger/1947-2014)

1947 (昭和22) 年、イギリスのロンドンに生まれる。両親がホテルを経営していたワイト島で育つ。1968 (昭和43) 年、ロンドンのセント・マーチンズ美術大学で美術の学位を取得。在学中にリチャード・ロングやハミッシュ・フルトンと知り合う。1976 (昭和51) 年以来、イギリスをはじめ、アメリカ、ヨーロッパ各国で作品を発表。イギリス南部、ノーフォークの海岸をおもな制作拠点として、海辺に流れ着いた木片などに、手の平ほどの大きさの凸レンズで太陽光線を焼きつける作品で知られる。2014年6月5日、逝去。

クラーベ, アンтони (CLAVE, Antoni/1913-2005)

1913年 (大正2年)、スペインのバルセロナに生まれる。建物の塗装見習いとして働きながらバルセロナ美術学校の夜間部に通い、週刊誌の挿絵、広告用ポスターを手掛ける。ポスター・コンクールでの受賞を契機に、縄、布、新聞紙などを作品に用いてマチエールの探究を始め、スペイン戦争での従軍を経て1939 (昭和14) 年、フランスに亡命しパリにアトリエを構える。1944年 (昭和19年)、ピカソに出会って作品に衝撃を受ける。油彩、コラージュ、タピスリー、アッサンブラージュ、版画、彫刻と多彩な制作により世界的に高い評価を得た。2005 (平成17) 年、逝去。

深沢 幸雄 (ふかざわ ゆきお FUKAZAWA Yukio/1924-2016)

1924 (大正13) 年、山梨県南巨摩郡に生まれる。1942 (昭和17) 年、東京美術学校 (現・東京藝術大学) 入学。油彩画に興味を抱いていたが父親の意向もあり彫金を専攻し、従軍を経て1949 (昭和24) 年卒業。1954 (昭和29) 年から銅版画を独習。メゾチントを中心とした銅版表現における第一人者となる。1963 (昭和38) 年には銅版画技法の指導のためメキシコに赴き、その文化から作風にも影響を受けた。1966 (昭和41) 年に出版された『銅版画のテクニク』や、多摩美術大学教授として後進に多くの影響を与えた。2017 (平成29) 年、逝去。

吹田 文明 (ふきた ふみあき FUKITA Fumiaki/1926-)

1926 (大正15) 年、徳島県に生まれる。1941 (昭和16) 年、徳島師範学校予科に入学。従軍を経て1947 (昭和22) 年に卒業し小学校に勤務。1949 (昭和24) 年、東京美術学校 (現・東京藝術大学) に長期研究生として派遣され寺内萬治郎教室で学ぶ。翌年より東京で小学校教員となる。1955 (昭和30) 年から版画に取り組み、翌年の読売アンデパンダン展から発表を始める。1958 (昭和33) 年に村松画廊で最初の個展を開催、また第1回グレンヘン国際色彩版画トリエンナーレ (スイス) で受賞

し、以後数多くの内外の展覧会で高い評価を得る。1969（昭和44）年からは多摩美術大学で後進の指導に当たり、現在は名誉教授。1987（昭和62）年、徳島県文化賞受賞。1989（昭和64）年、紫綬褒章受章。1998（平成10）年、勲四等旭日小授章受章。

福沢 一郎（ふくざわ いちろう FUKUZAWA Ichiro/1898-1992）

1898（明治31）年、群馬県に生まれる。1918（大正7）年、東京帝国大学（現・東京大学）文学部に入学するが大学にはほとんど行かず、朝倉文夫の彫塑塾に通う。1924（大正13）年、フランスに渡る。当初は彫刻を学ぶが絵画への関心を強め、シュールレアリスムに刺激を受けたコラージュ的な作品を制作。1931（昭和6）年、独立美術協会結成に加わり、滞欧作によって当時の美術界に衝撃を与えた。同年に帰国し盛んに制作、発表を行う。1939（昭和14）年、独立美術協会を脱退し美術文化協会を結成。1941（昭和16）年、治安維持法違反の嫌疑で瀧口修造とともに拘禁され、戦中を通じて活動に制限を受ける。戦後も作風を変えながら活動を続け、1978（昭和53）年、文化功労者となる。1991（平成3）年には文化勲章を受章した。1992（平成4）年、逝去。

ゴールズワージー, アンディ（GOLDSWORTHY, Andy/1956-）

1956年（昭和31年）、イギリス、チェシャーに生まれる。ブラッドフォード美術学校、プレストン・ポリテクニクに学ぶ。1970年代の半ばから、ほとんど素手で自然の中に分け入り、木の枝や葉、小石、氷など、そこで見い出された素材を用いて作品を制作し、これを写真に記録して発表するという活動を続ける。「作品を作ることは自然について学ぶこと」というゴールズワージーは、世界中で制作を行っているが、日本も三度訪れ、三重県大内山村、紀伊長島町、福井県、栃木県足尾町に滞在し、作品を制作した。スコットランド在住。

長谷川 潔（はせがわ きよし HASEGAWA Kiyoshi/1891-1980）

1891（明治24）年、横浜生まれ。1911（明治44）年に葵橋洋画研究所、1912（明治45・大正元）年に本郷洋画研究所で洋画を学ぶ。その頃から文学同人誌の表紙や扉絵のために木版画を手がけはじめた。文学の仲間だった堀口大樹や日夏耿之介の著作には長谷川による木版画や銅版画で装幀されており、ルドンやボードレーンなどフランス象徴主義の美術と文学に傾倒していったことが窺える。1918（大正7）年、アメリカ経由でフランスへ向け出発。1922（大正11）年、イギリス製のベルソー（伝統的な西洋銅版画の道具）を入手し、メゾチント（マニエール・ノワール）の技法研究を始め、1925（大正14）年、パリのル・ヌーヴェル・エソール画廊で版画の初個展を開催。交差線下地によるあたらしいメゾチントによる風景画を発表し、フランス画壇で認められる。またメゾチントだけでなく、銅版画のあらゆる技法研究に取り組んで独自の表現を生み出した。1931（昭和6）年、日本版画協会が創立されるとパリ在住ながら会員となり、日本にいる恩地孝四郎らと協力して日本版画協会

展をパリ装飾美術館で開催するために代表として尽力。その後も版画家として活動をつづけ、1980（昭和55）年に亡くなるまで、生涯をパリで過ごした。

橋本 真之（はしもと まさゆき HASHIMOTO Masayuki／1947-）

1947（昭和22）年、埼玉県に生まれる。1970（昭和45）年、東京藝術大学工芸科鍛金専攻卒業。銅による鍛金で、生命感に富む有機的な作品の発表を続け、増殖する印象を与える造形で評価を得ている。1995（平成7）年、「第16回現代日本彫刻展」（宇部市常盤公園）で宇部市野外彫刻美術館賞と埼玉県立近代美術館賞。1997（平成9）年、「第17回現代日本彫刻展」で山口県立美術館賞を受賞。2014（平成26）年より金沢美術工芸大学大学院教授。

池田 良二（いけだ りょうじ IKEDA Ryoji／1947-）

1947（昭和22）年、北海道根室に生まれる。武蔵野美術大学に入学し山口長男、野見山暁治のもとで絵画を学び1969（昭和44）年、武蔵野美術大学実技専修科研究過程修了。1975（昭和50）年、独学で銅版画制作を始め、国内外のコンクールでの評価を得る。1981（昭和56）年から一年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてロンドンに滞在。帰国後も数々の版画展で受賞を重ねる一方、武蔵野美術大学で後進の指導に当たる。武蔵野美術大学名誉教授

今村 輝久（いまむら てるひさ IMAMURA Teruhisa／1918-2004）

1918（大正7）年、大阪市に生まれる。生家は江戸時代から鑄造業を営む。1937（昭和12）年、京都市立美術工芸学校彫刻科を卒業し東京美術学校彫刻科塑像部に入学。在学中の1941（昭和16）年、第1回直土会展で奨励賞、第4回文展に入選。1942（昭和17）年に卒業後従軍、中支に派遣され終戦後の1946（昭和21）年まで抑留。復員後は大阪に居を定め、制作発表とともに後進の育成に携わる。1950（昭和25）年より行動美術展に出品。以後、同展を発表の中心として活動。1970（昭和45）年、今橋画廊（大阪）で最初の個展を開催。1989（平成元）年、大阪市市民表彰、文化功労賞を受賞。1990（平成2）年、伊丹市立美術館にて回顧展が開催される。2004（平成16）年、逝去。

加納 光於（かのう みつお KANO Mitsuo／1933- ）

1933（昭和8）年、東京に生まれる。病弱のため中学校を中退して自宅で療養。闘病中にランボーなどフランス詩を耽読。1953（昭和28）年、19歳のときに独学で版画を始める。瀧口修造に見出され、1956（昭和31）年、タケミヤ画廊で初の個展を開催。第3回東京国際版画ビエンナーレでは《星・反芻学》で国立美術館賞を受賞。金属を独自の方法での版とする作品を展開。1980年代にはデカルコマニーの手法を応用した油彩作品を制作。大岡信をはじめとする文学者との交流から生まれた作品も多い。

川口 軌外 (かわぐち きがい KAWAGUCHI Kigai/1892-1966)

1892 (明治25) 年、現在の和歌山県有田郡有田川町に生まれる。画家を志して和歌山県師範学校在学中の1912 (大正元) 年に上京し太平洋画会研究所に学ぶが、そのため翌年師範学校を放校となる。1919 (大正8) 年、フランスに渡りパリで学ぶ。1929 (昭和4) 年、帰国。滞欧作を二科展に出品し二科賞を受けるが、1930年協会、続いて独立美術協会の結成に参加。雄大なスケールの幻想的な作風で、同会の中心的な作家として活躍した。戦後は抽象的な作風を追求し、1966 (昭和41) 年に没するまで、常に新しい画風の実験を怠らず、前進し続けた。1966 (昭和41) 年、東京で没。

北辻 良央 (きたつじ よしひさ KITATSUJI Yoshihisa/1948-)

1948 (昭和23) 年、大阪府羽曳野市に生まれる。1972 (昭和47) 年、多摩美術大学デザイン科卒業。在学中から発表を始め、反復作業の中のずれを可視化した概念的な作品で注目される。作品の中の物語的な要素を展開させ、1980年代以降は神話的な性格を帯びた作品を発表。現在も活動を続ける。1994 (平成6) 年、文化庁派遣在外研究員としてイタリアに滞在。

清原 啓子 (きよはら けいこ KIYOHARA Keiko/1955-1987)

1955 (昭和30) 年、東京都八王子市に生まれる。1976 (昭和51) 年、多摩美術大学絵画科に入学。1978 (昭和53) 年、版画コースに進み、深沢幸雄らに学ぶ。1981 (昭和56) 年、多摩美術大学大学院中退。1983 (昭和58) 年、番町画廊 (東京) で初個展。1987 (昭和62) 年、逝去。

小林 清子 (こばやし きよこ KOBAYASHI Kiyoko/1947-)

1947 (昭和22) 年、新潟に生まれる。1972 (昭和47) 年、東京藝術大学大学院版画専攻修了。石版画による制作を続ける。1979 (昭和54) 年、サンシャイン版画・版種別グランプリ展で石版画部門大賞受賞を皮切りに、現代日本美術展、リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展などに出品、受賞を重ねる。

小清水 漸 (こしみず すすむ KOSHIMIZU Susumu/1944-)

1944 (昭和19) 年、愛媛県宇和島市に生まれる。1970 (昭和45) 年、多摩美術大学彫刻科中退。在学中から木をはじめとする様々な素材に対して一定の加工を加えることで、素材の存在と人間の行為を物質として呈示し、現代日本を代表する彫刻家の一人と評価される。京都市立芸術大学で後進の指導にあたり、2010 (平成22) 年、京都市立芸術大学名誉教授。

工藤 哲巳 (くどう てつみ KUDO Tetsumi/1935-1990)

1935年 (昭和10) 年、大阪に生まれる。少年期を青森、次いで岡山で高校まで過ごす。東京藝術大

学美術学部で学び、在学中から読売アンデパンダン展に出品し、「反芸術」の旗手として活躍。1962年（昭和37）年にフランスに渡り、以後20年間、ヨーロッパを主な活動の場とした。1987年、東京藝術大学教授に就任したが、1990（平成2）年、逝去。

黒崎 彰（くろさき あきら KUROSAKI Akira／1937- ）

1937年（昭和12）年、旧満州国大連市に生まれ、神戸で育つ。1950（昭和25）年頃から芦屋の新制作神戸研究所に通う。1962（昭和37）年、京都工芸繊維大学工芸学部・意匠工芸学科卒業。1965（昭和40）年から木版画の制作を始め、幕末の浮世絵版画への関心を現代的に展開した作品で東京国際版画ビエンナーレ展をはじめとする内外の版画展に出品、受賞を重ね評価を得る。京都精華大学で教鞭をとり、現在名誉教授。

李禹煥（LEE U-Fan／1936- ）

1936（昭和11）年、大韓民国慶尚南道に生まれる。1956（昭和31）年、ソウル大学校美術大学を中退して来日。1961（昭和36）年、日本大学文理学部哲学科卒業。1960年代後半から現れた「もの派」の動向を理論的に主導し、点や線といった最小限の要素による作品によって国際的に高い評価を得ている。多摩美術大学名誉教授。

森口 宏一（もりぐち ひろかず MORIGUCHI Hirokazu／1930-2011）

1930（昭和5）年、大阪市に生まれる。関西大学経済学部卒業。在学中、美術クラブに属し、1954（昭和29）年から行動美術協会展に出品。作品は絵画から、徐々に立体的な性格を強め、彫刻へと移る。アクリルやアルミニウム、ステンレスなどを用いた端正な作風で、理知的造形と評された。2011（平成23）年、逝去。

長岡 國人（ながおか くにと NAGAOKA Kunito／1940- ）

1940（昭和15）年、長野県佐久市に生まれる。1963（昭和38）年、多摩美術大学デザイン科を卒業し、東京でグラフィック・デザイナーとして活動。1966（昭和41）年西ベルリンに移住し、ベルリン国立アカデミー、ベルリン国立芸術大学大学院を修了。1977（昭和52）年のウィーン国際版画ビエンナーレでのグランプリ受賞をはじめ、国際公募展で数々の賞を受ける。ヨーロッパ各国で客員教授をつとめ、1991（平成3）年より京都精華大学で版画を教える。自身は帰国後、立体作品を制作。2001（平成13）年からはアルメニアに遺る墓碑の拓本をとるプロジェクトを行っている。

中村 不折（なかむら ふせつ NAKAMURA Fusetsu／1866-1943）

1866（慶應2）年、江戸の京橋（現在の東京都中央区）に生まれる。維新後、母の郷里である長野県

高遠に移住、21歳までを過ごす。1888（明治21）年、単身上京し小山正太郎の画塾、不同舎で洋画を学ぶ。明治美術会の展覧会で発表しながら、新聞の挿絵画家として生計を立てる。1897（明治30）年、島崎藤村の『若菜集』の挿絵と装幀を手がける。1901（明治34）年、渡仏しパリでラファエル・コランとジャン＝ポール・ローランスに師事。1905（明治38）年、帰国し太平洋画会会員として活動。夏目漱石や森鷗外ら文学者とも親しく、『吾輩ハ猫デアル』の挿絵なども描く。書家としても活動し、森鷗外の死去に際しては遺言により墓碑銘を手がけ、1934（昭和9）年には、自宅に書道博物館を設立した。1943（昭和18）年、逝去。

野村 仁（のむら ひとし NOMURA Hitoshi／1945- ）

1945（昭和20）年、兵庫県に生まれる。1969（昭和44）年、京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）専攻科彫刻専攻修了。時間の経過によって変化していく出来事を作品とすることを試みる。出来事の記録は写真を作品化することにもつながり、1975（昭和50）年からは電線と月の関係を楽譜としてとらえた《ムーン・スコア》を制作。京都市立芸術大学で後進の指導に当たりながら、1993（平成5）年、「ソーラー・パワー・ラボ」（SPL）を設立、1999（平成11）年にはソーラーカーによるアメリカ大陸横断を実現した。

呉採鉉（OH Chae-Hyun／1962-）

1962年、韓国、慶州に生まれる。国立慶北大学卒業。美術科修士号取得。イタリア国立美術学院彫刻科卒業。1992年よりイタリア、ペルージャを経て、カッラーラに移り住み、制作、発表を続ける。1996年に帰国。韓国の伝統的モラル等の根本を問いかける表現を試みている。

岡本 信治郎（おかもと しんじろう OKAMOTO Shinjiro／1933-）

1933（昭和8）年、東京に生まれる。1952（昭和27）年、都立日本橋高等学校を卒業。印刷会社のアートディレクターとして勤務するかたわら、独学で水彩画をはじめ、日本水彩画展などに出品。1956（昭和31）年、村松画廊で初の個展を開く。1960年代以降、単純な線と明快な色彩によるユーモラスな表現を確立し、日本のポップ・アートの先駆的存在と評価される。

大岡 信（おおおか まこと OOKA Makoto／1933-2017）

1931年（昭和6）年、静岡県田方郡三島町（現・三島市）に生まれる。1953（昭和28）年、東京大学文学部国文学科卒業。読売新聞社外報部記者を経て明治大学教授となる。詩人として戦後日本を代表する業績を残す一方、加納光於、宇佐美圭司をはじめ多くの芸術家とも交流し、美術批評も多い。2017（平成29）年、逝去。

パラモデル (Paramodel)

林泰彦（1971年生まれ。2001年 京都市立芸術大学構想設計専攻卒業）と中野裕介（1976年生まれ。2002年 同大学大学院絵画専攻日本画修了）からなるアートユニット。2001年より活動開始、2003年にユニット名を「パラモデル」とした。共に東大阪出身だが得意領域や趣向の異なるパラレル [parallel] な2人が、『パラモデル [paramodel] : 世界や心の様々な部品から組み立てる、詩的な模型／設計図』というコンセプトを核に共存、互いの視差 [parallax] と関係性を生かし、2人による「模型遊び」という要素をベースに、多様な形式で作品を制作している。

柴川 敏之（しばかわ としゆき SHIBAKAWA Toshiyuki／1966- ）

1966（昭和41）年、大阪府に生まれる。1991（平成3）年、広島大学大学院修了。1993（平成5）年から福山市立女子短期大学で教鞭をとり、福山市の草戸千軒町遺跡を知る。1997（平成9）年、文部省在外研究員としてイタリアに滞在。2010（平成22）年より就実短期大学で教鞭をとる。2000年後に発掘された現在をテーマにした制作を続ける。

白髪 一雄（しらが かずお SHIRAGA Kazuo／1924-2008）

1924（大正13）年、兵庫県尼崎市に生まれる。1948（昭和23）年、京都市立絵画専門学校（現・京都市立芸術大学）日本画科を卒業。大阪市立美術研究所に学び、1952（昭和27）年、金山明、村上三郎、田中敦子らと0会を結成。1955（昭和30）年、具体美術協会に参加。床に広げたキャンバスに足で描く独自の方法による制作を展開。国際的にも高い評価を得る。2008（平成20）年、逝去。

孫雅由（SON Ah-Yoo／1949-2002）

1949（昭和24）年、大阪市に生まれる。在日韓国人二世。1966（昭和41）年、美術家を志し上京、高山登の教えを受ける。1968（昭和43）年、多摩美術大学に入学するが自主退学。関西に戻り制作を行う。1980（昭和55）年、兵庫県西宮市に工房イェプシロンを設立。筆触と色彩による作品を多く試みた。2002（平成14）年、逝去。

高原 洋一（たかはら よういち TAKAHARA Yoichi／1944- ）

1944（昭和19）年、岡山市に生まれる。1968（昭和43）年、武蔵野美術大学産業デザイン科卒業。写真に基づくシルクスクリーン作品により、現代日本美術展、日本国際美術展などで評価を得る。1983（昭和58）年、岡山県文化賞、2006（平成18）年、福武文化賞、2009（平成21）年、岡山県文化賞など受賞を重ねる。

高橋 秀 (たかはし しゅう TAKAHASHI Shu/1930-)

1930 (昭和5) 年、広島県に生まれる。1950 (昭和25) 年、武蔵野美術学校に入学するが半年で退学。独立美術協会に出品し、1961 (昭和36) 年、独立美術協会第29回展で独立最優秀賞を受賞。同年、安井賞を受賞。1963 (昭和38) 年、イタリア政府招聘留学生としてイタリアに渡り、以後ローマに在住。1966年頃から整形したキャンバスと明快な色彩による作風を確立。多くの展覧会に招かれる。1987 (昭和62) 年、芸術選奨文部大臣賞、翌年、第20回日本芸術大賞を受賞。

高井 貞二 (たかい ていじ TAKAI Teiji/1911-1986)

1911年 (明治44) 年、大阪市に生まれ神戸で育つ。小学生の頃、父の事業のため高野口町に転居。1923 (大正12) 年、和歌山県立伊都中学校に入学、油彩画を始める。翌年夏の第2回信濃橋洋画研究所夏期講習会に参加。小出檜重、国枝金三、鍋井克之らの指導を受ける。1929 (昭和4) 年、上京。第17回二科展に《文明》が初入選。戦前においてはシュルレアリズムの作家として注目を集めた。1954年 (昭和29年)、アメリカに渡り、抽象表現主義からポップへと作風を展開。アメリカでも美術館に作品が収蔵されるなど、高い評価を得た。1986 (昭和61) 年、逝去。

建畠 寛造 (たてはた かくぞう TATEHATA Kakuzo/1919-2006)

1919年 (大正8年)、和歌山県出身の彫刻家、建畠大夢の長男として東京に生まれる。東京美術学校 (現・東京藝術大学) 彫刻科で学び文展などに出品。戦後、行動美術協会彫刻部の創設に参加する頃から抽象的な造形を模索。1953年 (昭和28年) にはフランスへ渡り、ヨーロッパの同世代の作家たちと交流。サロン・ド・メに出品するなど精力的な活動を続けた。帰国後は有機的な抽象へと向かい、木、鉄、ステンレス、セメント、合板など様々な素材に取り組んだ。2006 (平成18) 年、逝去。

津高 和一 (つたか わいち TSUTAKA Waichi/1911-1995)

1911 (明治44) 年、大阪市に生まれる。1927 (昭和2) 年頃から詩作を始めるが、1938 (昭和13) 年頃から絵画に興味を持ち、中之島洋画研究所で学ぶ。従軍を経て戦後、行動美術協会展で作品を発表。1950年代から独特の詩情にあふれた抽象的な表現を展開。1969 (昭和44) 年から1985 (昭和60) 年まで大阪芸術大学美術学科教授をつとめ、翌年に名誉教授となる。1995 (平成7) 年、阪神・淡路大震災に被災し逝去。

上野 憲男 (うえの のりお UENO Norio/1932-)

1932 (昭和7) 年、北海道に生まれる。1952 (昭和27) 年、画家を志して単身上京。自由美術協会展入選。1962 (昭和37) 年、第5回現代日本美術展コンクール賞受賞。個展、グループ展において、記号や文字の浮遊する、みずみずしく抽象的な作品を発表。

宇佐美 圭司（うさみ けいじ USAMI Keiji／1940-2012）

1940（昭和15）年、大阪府吹田市に生まれる。小学生時代を疎開先の和歌山で過ごした。高校卒業後、東京芸術大学への進学をめざして上京するが、受験せずに画家の道へ進む。1963年（昭和38年）、ほとんど白一色の抽象的な作品でデビュー。その後、1965年（昭和40年）、ロサンゼルスで起こった黒人暴動を報道する写真の中の人物の輪郭を画中に引用するようになり、1968年（昭和43年）にはレーザー光線を使った作品で注目を集める。その作品は数々の賞を受賞し、国際展でも多く紹介されて、評価を得ている。2012（平成24）年、逝去。

山本 桂右（やまもと けいすけ YAMAMOTO Keisuke／1961- ）

1961（昭和36）年、大阪市に生まれる。1986（昭和61）年、金沢美術工芸大学大学院修了。1993（平成5）年のさっぽろ国際現代版画ビエンナーレ大賞受賞を皮切りに、静謐な空間を描き出した石版画により内外の版画展で高い評価を得る。1995（平成7）年から一年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。

山本 正道（やまもと まさみち YAMAMOTO Masamichi／1941- ）

1941（昭和16）年、京都市に生まれる。1967（昭和42）年、東京芸術大学大学院彫刻科を修了。第2回現代日本彫刻展、新制作協会展で発表。1968（昭和45）年、イタリア政府給費留学生となりローマ美術学校でペリクレ・ファッツィーニに学ぶ。帰国後の1973（昭和48）年、新制作協会会員となる。1976（昭和51）年、第5回平櫛田中賞をはじめ、数々の受賞を重ね、1980年からは東京芸術大学で後進の指導にもあたった。

保田 龍門（やすだ りゅうもん YASUDA Ryumon／1891-1965）

1891年（明治24年）、和歌山県那賀郡龍門村（現・紀の川市）に生まれる。中学校卒業後、上京して太平洋画会研究所で指導を受け、1912年（明治45年）、東京美術学校西洋画科に入学。その後日本美術院の研究所で彫刻を学び、院展で作品を発表。1920（大正9）年、アメリカに渡り、翌年にはパリに移ってブルデルの教室に学ぶ。1923（大正12）年、関東大震災の直後に帰国。和歌山を拠点に活動し、その後、大阪に転居。戦後は、大阪市立美術研究所、ついで和歌山大学で後進の指導にあたり、関西の美術界に大きな影響を与えた。

吉田 政次（よしだ まさじ YOSHIDA Masaji／1917-1971）

現在の有田川町に生まれる。1941（昭和16）年、東京美術学校（現 東京芸術大学）を卒業するが、まもなく太平洋戦争に従軍。1948年頃、木版による抽象表現に辿り着く。戦争経験とは対比的な秩序ある穏やかで平和な世界を、木版のテクスチュアを活かして、詩情あふれる奥行きのある空間として描

いた。

吉原 英里（よしはら えり YOSHIHARA Eri／1959- ）

1959（昭和34）年、吉原英雄を父として大阪府に生まれる。1983（昭和58）年、嵯峨美術短期大学版画科専攻科修了。銅版画を主要な技法としながら、雁皮紙と洋紙の間に別の素材をはさむ「ラミネート」と名付けられた手法で評価を得る一方、絵画と組み合わせた作品も試みている。1984（昭和59）年、第五回現代版画コンクール（大阪府立現代美術センター）入選をはじめ、内外の展覧会に出品を続けている。